

(大阪府)

市 政 ル ポ

モノづくり&ラグビーのまちが目指す  
地域の魅力を生かしたまちづくりの だよしかず  
野田義和  
東大阪市長W杯に向け進む  
ラグビーのまち強化策

7月半ばの蒸し暑い午後、東大阪市の庁舎を取材に訪れると、職員の皆さんが着用する、爽やかな色合いのボーダー柄のラグビーシャツがひときわ目についた。平成22年度に「ラグビーワールドカップ誘致室」を開設して以来、東大阪市役所ですっかり恒例化した、夏のクールビズ用ラグビーシャツ（東大阪市のオリジナルデザインで毎年更新）である。

「モノづくりのまち」として有名な東大阪市の「ラグビーのまち」でもある。そしてご承知のように、東大阪市の平成27年3月に「ラグビーワールドカップ2019」の開催12都市の1つに決定した。「誘致室」はその年の4月から「花園ラグビーワールドカップ2019推進室」へと衣替えしたが、ラグビーシャツ着用のクールビズは今も続いている。

「開催都市に決定してからは、日本最古のラグビー専用競技場である花園ラグビー場（正式名称は東大阪花園ラグビー場）を持つまちとして、特に欧米やオセアニアのラグビーの盛んな国や都市の間で、東大阪市の知名度は上がってきています」

そうにこやかに語るのは、野田義和・東大阪市長である。

ラグビーシャツによるクールビズを始めたころ、市役所には「行財政改革をしているのに、税金で職員のラグビーシャツを買うのはいかなものか」という批判の声も寄せられたという。しかし、職員の着用しているラグビーシャツはすべて職員が自費で購入したものだ。それが知られると、批判の声はビタリと止んだ。

「私のラグビーシャツももちろん自費購入です（笑）。それにしても、早いものですね。ワールドカップが始まる2019年（平成31年）9月まであと約3年、いや、もう3年しかないのですから。そして2019年のワールド



カップは当初、新国立競技場のこけら落としの大会になるはずだったのに、それがダメになった。幸先があまり良くないなど思っていたら、日本代表が昨年のワールドカップ2015イングランド大会で、歴史的な大活躍してくれた。おかげさまで一気に、2019年に向けての弾みがつきました」（野田市長）

日本代表人気の効果もあってか、昨年12月から今年1月に掛けて花園ラグビー場で



ラグーシャツでワールドカップ開催地決定を祝福(平成27年3月)



議会でもラグーシャツで開催地決定をアピール



開催都市決定とともに誘致室は推進室に衣替え

花園は甲子園とともに、関西が関西であるために不可欠なピースだと私は思っています。ただでさえワールドカップの開催は財政的にも厳しいのですが、大阪府や国のご協力をいただいて、ワールドカップをぜひとも成功させたい。併せて、ラグビーのまちづくりの推

開催された、恒例の全国高等学校ラグビーフットボール大会(第95回)では、史上最多となる約12万7000人もの観客が訪れた。観客には子どもや女性の姿が従来以上に目立ち、ラグビー人気のすそ野の広がりが際立つ結果となった。

現在東大阪市の所有になっている花園ラグビー場(1929年開場)は、もともと社会人ラグビーの強豪・近鉄の専用ラグビー場だっ

た。ワールドカップ開催が決まった後、これを契機にラグビー場周辺のまちづくり事業を開始するために近鉄と交渉し、土地は東大阪市が買収すること、上物(ラグビー競技場の建物)は近鉄が社会貢献の一環として東大阪市に無償譲渡(営業権付き)することがそれぞれ決定した。近鉄側の無償譲渡の条件は「ラグビー場を存続させること」のみで、ラグビートップリーグの近鉄ライナーズは、引き続き花園を使用する。

もとより日本最古のラグビー専用競技場で、日本ラグビーの聖地とまでいわれる花園ラグビー場を東大阪市が保有し、存続させる

意義は、後に述べるように極めて大きい。

### 《ラグビーのまち》発信と観光振興

野田市長は、「高校野球の聖地・甲子園球場とともに、高校ラグビーの聖地・花園ラグビー場は、関西全体の宝でもある」と語る。「だから、かつて全国高等学校サッカー選手権大会が関西から東京に持って行かれたような形で、高校野球や高校ラグビーの聖地も東京首都圏に移るようなことがあっては、絶対にならない(笑)。まさかといわれるかもしれませんが、歴史上、同様のことはたくさんあった。



史上最多の観客動員を果たした全国高校ラグビー開会式(平成27年12月)

進とともに、私は東大阪市の1つの使命として、聖地・花園をずっと守り続けていくつもりです」

ご案内いただいた花園ラグビー場は、シーズンオフということもあり静かだった。歴史をしのばせる佇まいが印象的だが、同時に老朽化も目立つ。今後は照明設備の新設(現在は文字表示だけ)、観客席の改修(2万4000席をセパレート式に改修)、諸室の改修(ロッカールーム、医務室、ドーピングルーム、トイレなど)をはじめ、大規模な改修工事が予定されている。

ワールドカップ開催に合わせ策定された

「花園ラグビー場整備基本構想」によれば、改修・整備は施設にとどまらない。その要点はおよそ次の通りである。

◇施設コンセプト(目指す施設像)——スポーツ専用施設から防災施設を兼ね備えた、市民が集うイベント施設へ。具体的には、長期的に耐久することを前提とした建築基準を備える施設。局的豪雨などの際にも雨水を貯留・浸透できる機能を持ち、周辺地区への雨水流出を防ぎ、水資源としても活用できる施設。耐震構造の確保はもちろん、多様な用途の大規模イベントにも使える安全機能が確保された施設。地域の財産施設として、市民が幅広く利用でき、イベント開催時には観客が快適に観覧できる施設など。

◇ラグビー場周辺の整備——花園ラグビー場は各種の文化・運動施設を備えた市民の憩いの場・花園中央公園(約36ha)内にある。花園中央公園の整備・美化とともに、最寄り駅である近鉄奈良線東花園駅から花園ラグビー場まで約400mの「スクラムロード」(平成22年に公募決定した愛称)の各種整備・美化事業(花園中央公園周辺魅力推進事業)などを継続実施する。

◇その他——周辺への影響を可能な限り低減化しつつ、予測される観客の大量動員に対し、安全面からも機能面からも十二分に耐えられる交通アクセスの確保・整備、施設や周辺環境の可能な限りのバリアフリー化、ごみのリデュース(ごみ持ち帰り運動の実施、分



改修を待つあいだも芝生の維持・管理は不可欠(花園ラグビー場)

別排出および資源化・再利用化など)の実施などを図る。

平成3年に「ラグビーのまち」を標榜して以来、多彩な発信事業を進めて

きた東大阪市の「ラグビーのもつイメージをいかしたまちづくり」はワールドカップ開催都市に決定したことで、これまで見てきたように拍車が掛かり、より進化(深化)しつつある。



こうした取り組みを進めるとともに、東大阪市ではラグビーを媒介にした観光振興（交流人口の拡大）にも力を入れ始めた。例えば今年4月には「花園ラグビー場みらい魅力活性化委員会・観光交流部会」を発足している。ここでは市内の推奨観光ルートの確立、リピーターの確保などを図る方策などを探り、ワールドカップ本番までに、花園ラグビー場を中心とした「人の流れ」をあらかじめ創造しておくことなどを目的にしている。

### 《ラグビーのまち》 《モノづくりのまち》の接点

そうした動きとは別に、建物とともに営業権も譲渡されたことにより、例えば動員1万人以上の大規模な野外コンサートなどの会場として、既に貸し出し事業も実施している。面白いのはこうした流れの中で、「有力な観光ツールとしての《モノづくりのまち》」という発想が生まれてきていることだろう。

「それは特に海外向けに面白い企画だと思っています。特に彼の地のラグビーファンや関係者は富裕層が多い。そういう方たちにワールドカップの観戦に来ていただくというのももちろん重要なのですが、実は《モノづくりのまち》としての東大阪への関心も、観光と同時に深めていただければと思っ



次世代(小学生)を対象に開催される「モノづくり体験教室」

その兆候は既に表れているという。例えばワールドカップ開催都市が決定した後、フランス南西部の都市・トゥールーズの関係者の団体が東大阪市を訪れ、ラグビーを通じた交流とともにモノづくりの面での交流も打診するということがあった。トゥールーズはラグビー大国フランスでも屈指の強豪チーム「スタッド・トゥールーズ」の本拠地であると同時に、ICT関連の工業や航空宇宙産業が盛んで、エアバス社の生産拠点としても知られている。

また駐日大使館（東京）と並ぶ、英国政府の駐日代表機関の1つである英国日本総領事館（大阪）からは、前総領事が東大阪市を訪問し、ラグビーワールドカップを契機に経済交流をしていきたいとの申し入れが



モノづくり企業と連携し、東大阪市の技術力を高める東大阪市長官立産業技術支援センター

あったという。

ご承知のように東大阪市はわが国有数の工業都市だ。それも技術力優秀な中小企業が6300以上も集まっている。「歯ブラシから新幹線、人工衛星まで」のキャッチフレーズ通りに、東大阪市の工場はありとあらゆる工業製品の素材や部品を生産している。例えば東大阪市のある工場が生産を止めたら、日本の自動車産業の生産ラインはストップするといわれている。またスカイツリーの鉄骨をつなぎ止めているナットのうち、主要な部分に使用されている約40万個のナットも東大阪市の工場が生産している。

「それと同様の技術力を持った工場が、東大阪にはたくさんあります。オンリーワンであり、ナンバーワンの技術が、東大阪には集



大阪府内最大級の秋祭りとして知られる「枚岡秋郷祭り」(枚岡地区)

中しているのです」(野田市長)

世界のラグビー界を牽引するとともに、工業国としても知られるフランス・英国からの東大阪市へのアプローチは、そうした工業都市・東大阪市のバックグラウンドを熟知した上での、本気の技術交流、経済交流へのアプローチなのだ。

東大阪エリアの工業力の優秀さを物語るごく最近の話題としては、国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科および同大学附属病院と東大阪市とが今年4月に締結した、「医工連携」の協定も見逃せない。

この協定は健康・医療分野におけるイノベーションの実現に向けたもので、東大阪市内の

モノづくり企業の技術力を駆使した医療機器の開発などの事業化を進め、東大阪市内のモノづくり企業による健康・医療分野への積極的な参入を図ることを目的としている。

「これが軌道に乗れば、大学側にとっ

ては将来的にオンラインワンの医療機器の供給が安定的に図れますし、東大阪市のモノづくり企業にとっては新たな鉱脈(分野)の開拓につながります」(野田市長)

協定締結の結果、現在、東大阪市の事務職1人(係長級)を大阪大学大学院医学系研究科の「教員」として派遣している。教壇に立つわけではないが、大学内にデスクを持つ常駐し、大学側の需要を常に汲み取りながら市内のモノづくり企業へつなぎ、開発から事業化へとコーディネートしていく重要な役割を担っている。市役所職員がこうした形で大学に派遣される事例は全国的にも稀だろう。



大阪府開設の「モビオ」(府内中小企業の総合展示場)のメイン展示は、東大阪市の企業群が造った人工衛星「まいど1号」

## モノづくりのまちとしての課題と未来

あらゆる工業製品の部品供給面では、ほかの追随を許さないほどの技術力の集積を誇る東大阪市だが、企業全体の99%を占める中小零細企業の後継者難はやはり大きな課題になっている。

ただこれについては、例えば市内に立地する4大学の学生アンケート調査の結果などを見ると、優れた技術力を持つ東大阪市内の中零細企業を就職先候補の1つとして意識している様子がうかがえる。こうした学生たち

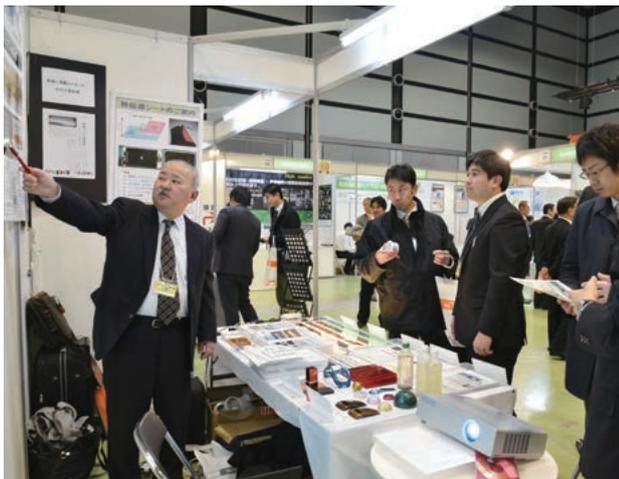
# 東大阪市

市 政 ル ポ

(大阪府)



市内のモノづくり企業の技術の粋がみられる「東大阪産業展 テクノメッセ」(毎年11月)



東大阪市のモノづくり企業の技術力を展示する「もうかりメッセ」は東京で毎年開催(毎年2月・東京大田区)



街路を隔てて工場と住宅が向かい合う住工共生

に向けた、東大阪市と市内企業群の連携による今後の働き掛けが目される。

工業都市・東大阪市のもう一つ重大な課題は、小さな工場が多いことなどを要因に進んでしまった住工混在状況の改善が挙げられる。これについては現在、「住工共生のまちづくり」(平成25年4月に『住工共生のまちづくり条例』施行)を進めている。

「ゆくゆくは住工の完全分離を目指しますが、まずは道路の片側に工場群、反対側に住宅群というように街路で明確に区切れるような形を目指しています」という野田市長の言葉通り、町工場が集中する地区では現在、こうした共生の取り組みが少しずつ進んできている。

人口50万人を維持する中核市・東大阪は、大阪市に隣接しており、難波へは30分以内、

京都・奈良・神戸などへも1時間以内の通勤圏にあり、鉄道駅は何と市内に25もあることなどから、住宅地としても人気が高い。しかし、中小零細企業で構成される工業都市・東大阪は、今後も工業都市としての集積度を低めるつもりはないという。東大阪は市域の91%を「モノづくり推進地域」と定めており、製造業者が仮に1社消えたら、その跡地にはまた製造業者を誘致するなどして、モノづくりのまちとしての現況を維持することを宣言している。

「現況の統計を取ると、市内のモノづくり企業に勤める人の60%以上は、市民です。つまり東大阪の場合、定住人口(市民)とモノづくり企業は常に1対の存在であり、いわばモノづくりがアイデンティティになってい

る。そういうまちなのです」(野田市長)

トゥールーズの例で分かるように、ラグビー大国のフランスや英国では、工業都市ほどラグビーが盛んな傾向がある。東大阪市では『ラグビーのまちづくり』の基本理念について「力強さ・たくましさ、連帯性・団結力、友情・すがすがしさ」といったイメージを、市のまちづくり施策の全分野に生かすことを目的とする——としている。「モノづくりのまち東大阪」と「ラグビーのまち東大阪」はまさに、車の両輪のようなものだ。2019年のワールドカップの後には、東大阪の名とともに、そのアイデンティティが「モノづくりとラグビー」にあるという事実もきつと、世界中に知れ渡っていることだろう。

(取材・文 遠藤 隆 / 取材日 平成28年7月15日)